

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 8月稚魚調査 速報

●実施状況

令和2年8月18日に稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温は32.4～34.5℃と高かった。調査地点の風は2.0～4.0m/sであり、城南大橋とお台場は北、葛西人工渚は西寄りであった。調査当日は中潮で、干潮は10時34分、満潮は17時22分であった(気象庁のデータ)。

調査地点で採取されたマハゼは、6月調査時に比べ成長していた。また、お台場海浜公園では、夏季に干潟域に出現するヒイラギやコトヒキ等が確認された。

	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	9:10-10:16	10:40-11:40	12:14-13:53
水温(°C)	30.2	30.4	30.8
塩分(-)	16.0	18.6	15.7
透視度(cm)	25.0	27.0	41.0
DO(mg/L)	8.1	11.4	8.0
DO飽和度(%)	117.7	169.4	117.0
波浪(m)	0.2	0.1	0.3
pH(-)	8.1	8.5	8.4
水の臭気	弱下水臭	無臭	無臭
備考	下げ潮時に調査を行った。	上げ潮時調査を行った。 水遊びや日光浴などで20人ほどが渚を利用していた。	上げ潮時に調査を行った。

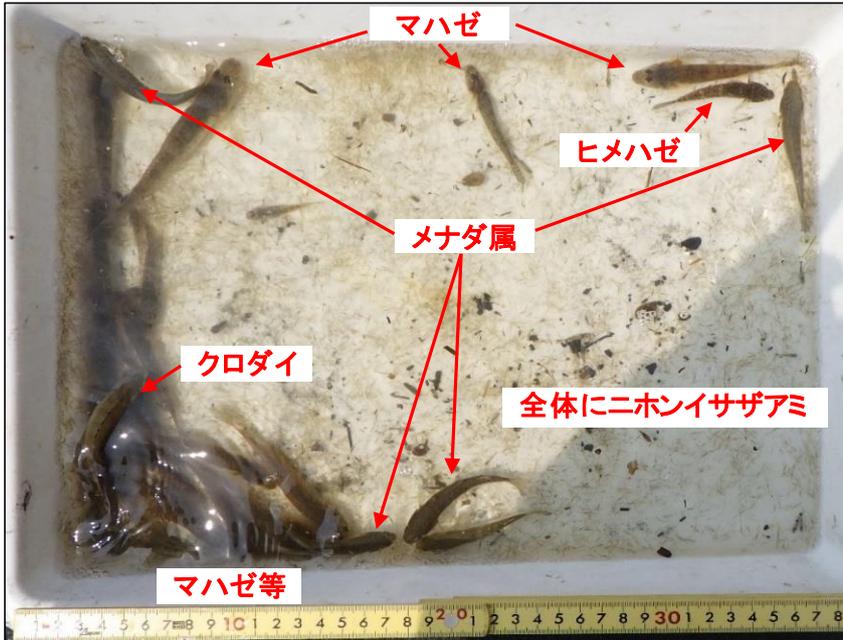
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ハゼ科(c)	マハゼ(c)	マハゼ(+)
	マハゼ(+)	ビリンゴ(+)	メナダ(r)
	ヒメハゼ(+)	コノシロ(+)	ヒメハゼ(r)
	メナダ(+)	アシシロハゼ(r)	アシシロハゼ(r)
	クロダイ(r)	コトヒキ(r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ(G)	アラムシロガイ(c)	ニホンイサザアミ(G)
	エビジャコ属(c)	エビジャコ属(+)	シラタエビ(+)
	シオフキガイ(r)	シオフキガイ(r)	
備考		他にヒイラギ、マゴチが採取された。	ニホンイサザアミは大量に採取された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



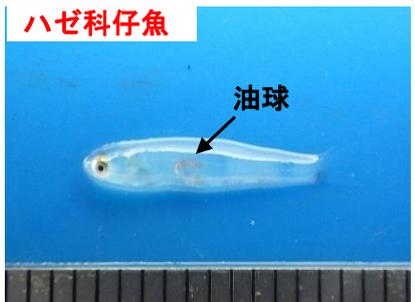
全長 9cm 程になる。内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。



ボラ科の魚でボラによく似るが、ボラは脂脛(目を覆う脂肪の膜)が発達しているのに対して、メナダ属は脂脛が小さいことや、尾鰭の両端がボラよりも丸みを帯びていることで区別できる。



「チヌ」とも呼ばれる。夏秋の幼魚期は内湾や沿岸域に定着する。秋冬は内湾周辺の深場で越冬をする。産卵期になると浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。



城南大橋では、着底前のハゼ科の仔魚が採取された。ハゼ科の仔魚は、腹部に浮力調整のための油球があることが特徴である。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに逞猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。



殻長 5cm 程になる、内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。採取された個体は稚貝。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジのたもとにある人工の渚。オリンピック関連の工事の影響で、北東側に位置をずらして調査を実施した。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm

ビリンゴ



河口付近の干潟域で稚仔魚が 3～5 月に大量発生する。稚魚が成長するにつれて河川上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵する。

ヒイラギ



名前は植物のヒイラギ(柊)の葉の形に似ていることから。遊泳中は背部に黒斑が現れ、各鰭は鮮やかな黄色になる。前部には鱗がなく、ヌルヌルとした粘液で覆われている。

マゴチ



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4～7 月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。肉食性で、小魚などを食べる。

コトヒキ



東京湾では、湾奥から外湾にかけての沿岸浅所でみられる。うきぶくろを使ってぐうぐうという音を出し、これがコトヒキ(琴引)の名前の由来となっている。

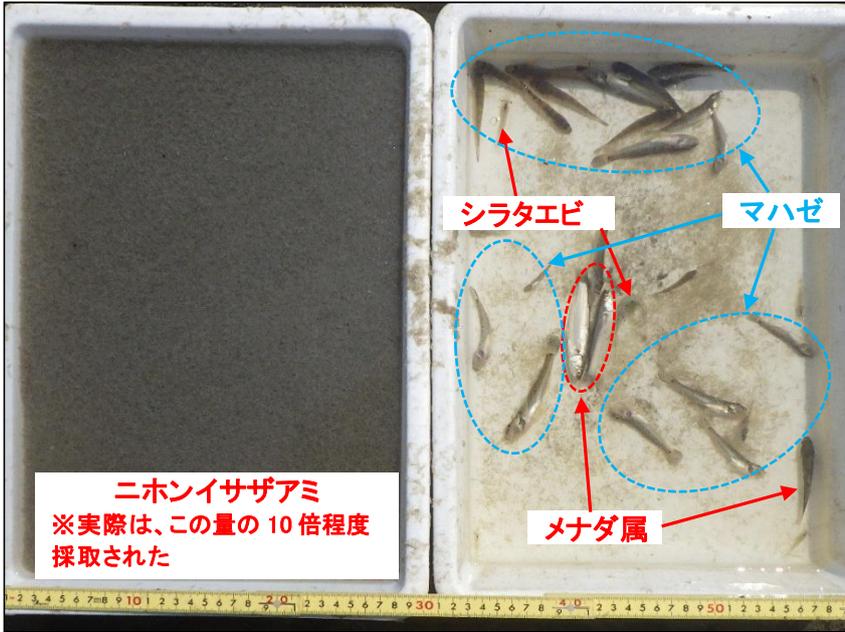
コノシロ



一般には「コハダ」という呼び名で知られる。東京湾を代表する魚の一つで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でもみられる。採取された固体には大きさに幅がみられた。



葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等

※写真のスケール1目盛:1mm

マハゼ



東京湾を代表する魚の一つで今回の調査でも全地点で採取された。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深い場所へと移動する。

ヒメハゼ



*解説は城南大橋を参照。ヒメハゼとマハゼはよく似ているが、マハゼに比べヒメハゼの体色が黒っぽい。また、ヒメハゼの下顎は上顎より突出している。

メナダ属



*解説は城南大橋も参照。本種は60cmほどまで成長し、大きなものでは1mほどになる個体もある。

アシシロハゼ



マハゼに似るが、ウロコがやや粗く、体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べる。

ニホンイサザアミ



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大発生し、稚魚の重要な餌となる。葛西人工渚では多量に採取されることがあるが、今回の調査では特に多かつた。

シラタエビ



スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。汽水域に生息しており、触角が青く、額角がトサカ状に盛り上がることで他種と簡単に見分けられる。